営農インフォメーション

ねぎ　目指せ売上 10億円以上

☆今後の栽培

・囲いねぎ…11月下旬頃に掘り取りを行う
・露地で保存する場合…結束した束を並べ、軽く培土した後にパスライト（270cm幅）を被覆する
・ハウスで保存する場合…10aあたり80坪の面積に結束した束を並べ、軽く培土する。ハウス内では気温と湿度が高く、さび病とべと病が発病しやすいため、収穫前に薬剤防除を行う。
※囲ってからの薬剤散布はできません!!

☆連作障害対策

同一圃場で3年以上連作すると、土壌成分のアンバランスによる収量の減少や、軟腐病などの土壌病害の発生が多くなります。これらを解消するため、ねぎ栽培後にスダックスやえん麦といった緑肥作物を栽培し、地力の維持増進を図りねぎの安定生産に努めましょう

☆来年の栽培に向けて

①土壌分析によって、適正な施肥体系を立てる
②収穫時期を考慮した品種の選択と、適正規模の作付けによる取り遅れの無い品質を確保する
③チェーンポット育苗の発芽揃いを均一にする
④品種ごとの肥料吸収特性を考慮した施肥体系を立てる
・F1品種の夏扇系品種は、根量が少なく施肥反応が鈍感なため、施肥量は固定種よりも多肥で管理する
・緩効性肥料がねぎの生育に合っている（CDU化成、ジシアンS402）
・追肥により養分吸収を安定的にする（過剰吸収、養分不足の波を作らない）
⑤早めの土寄せは太さがとれないので、4～5回に分けて行う
⑥べと病、さび病、ネギアザミウマなどの防除対策として、初発時からの予防防除対策を計画的に行う（排水不良は小菌核腐敗病や軟腐病が発生しやすくなるので注意）
⑦収穫適期の幅は品種により異なるため、夏扇4号は9月中～下旬に収穫適期になると、生育が停滞し首が開きやすくなるので、収穫時期や他の品種との作付け体系を考慮する

山うど

☆伏せ込み作業の流れ

休眠が不足すると、加温から収穫までの日数がかかり、バラツキが大きくなり、また歩留まりが下がるため、収量的にも極端に少なくなります。さらに伏せ込みしてからの日数が長くなると、赤みが強くなったり、葉柄や石つき部分が腐敗しやすくなって、著しく商品価値が下がるので注意しましょう。

根株の掘り取り（11月中旬～12月中旬）
⇩　出来るだけ根株の土を洗い流す
休眠打破に必要な低温量の確保（～12月20日頃）
⇩　直射日光を避けて保存する
床へ伏せ込み（12月上旬～翌3月中旬）
⇩　温度計を数カ所に設置して温度管理
ジベレリン処理（ジベ50ppm）
⇩　ジベ処理量は株当たり約30cc
ビニールを掛けて蒸らし、加湿する
⇩　20℃以下で管理、3日間
ビニール撤去後、芽土を入れる
⇩　芽土は新芽が隠れる程度、4～7日
萌芽を確認（16～18℃で管理）
⇩　ハウス換気や遮光などで温度管理、7～10日後
土または籾がらを入れる
⇩　17℃～15℃で管理
土または籾がらを入れる
⇩　15℃で管理（収穫2週間前）
収　　穫

※その他の注意点
・一時的な極低温による凍障害防止のため、最低でも早朝5℃以上を保つよう保温資材を重ねます。ストーブなどの補助的な加温で、凍害を回避しましょう。
・高温となる日は、寒冷紗などで遮光して焼けを防止する（2月中旬以降は特に注意！）

今月のあなたの運勢（2011年11月）

牡羊座（3・21～4・19）　行動力が増している月。やりたいことがあれば、積極的に挑戦を。中途半端になっていた事柄を再開するのも◎